

その1 枚方

(平成4年2月1日号—第156号)

私たちの住んでいる枚方は、『日本書紀』にも「比羅賀駄」[ひらかた]と記されている^{*1}ように、かなり古くから名の知れた土地であることが察せられます。

また、この地は、平安時代には都の貴族階級の狩猟地として知られ、ここで幾多の



1 渚院(『河内名所図会』)

歌人が後世に残る歌を詠んだりもしました。中でも、在原業平[ありわらのなりひら]が渚の桜をめでた「世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」という歌は有名で、『古今集』にも入っています。

このように、枚方には長い歴史があり、市内のあちらこちらに、由緒のある地名も数多く残っています。議会報編集委員会では、私たちのまち枚方の各所を順次、皆さんにご紹介してまいります。

どうぞお楽しみに。

^{*1} 『日本書紀』継体天皇24年条。